

■チェックリスト

次のチェックリストを使って、自身の取組を振り返ってみましょう。

(4 非常に当てはまる 3 大体当てはまる 2 あまり当てはまらない 1 全く当てはまらない)

到達目標の共有	①	私は、本校の教育目標について、十分に納得しており、具体的に説明することができる。	4	3	2	1
	②	私は、本校の教育目標や重点目標を意識して授業や行事に取り組んでいる。	4	3	2	1
	③	私は、本校の教育目標や重点目標と十分に関連付けた学級経営（学年、課、部活動等の運営も含む）をしている。	4	3	2	1
プロセスの設計	④	私は、本校の教育目標に基づき、教科等の指導において、児童生徒の実態に即した年間指導計画を作成している。	4	3	2	1
	⑤	私は、教科等の学習内容を、実生活や社会での出来事に関連付けて指導するように心掛けている。	4	3	2	1
	⑥	私は、校内研修や会議等の場で、授業アンケートや学校評価アンケート等の各種資料に基づいて教育活動を振り返り、成果と課題を見出している。	4	3	2	1
	⑦	私は、見出した教育活動の成果と課題を基に、具体的な指導方法の見直し・改善をしている。	4	3	2	1
チーム・ネットワークの構築	⑧	私は、新しい実践に対して前向きに取り組もうとしている。	4	3	2	1
	⑨	私は、自分の担当学年・教科だけでなく、学校の教育活動全体で、組織的に児童生徒を育てよう意識している。	4	3	2	1
	⑩	私は、地域の方（保護者や大学、企業、その他の関係機関も含む）と積極的に協力・協働して教育活動を行っている。	4	3	2	1

■Q & A

Q: これまでの取組を振り返るには、どのようにすればよいですか？

A: 次の二つの視点で、その取組を振り返ってみましょう。1点目は、「その取組の目的は何だったのか」ということです。目的があいまいなまま、前年度にやっていたからという理由だけで実施していないか確認してみましょう。2点目は、「目的に照らし合わせてみて、指導計画は効果的にものになっていったか」ということです。たとえば、教科の年間指導計画が教科書の内容の配置だけで決められていなかったでしょうか？他教科や行事などと関連させると、もっと効果的な学びになることなどがなければ確認してみましょう。

Q: 「教科等横断的な視点に立った資質・能力」にはどのようなものがあるのでしょうか？

A: 総則では、「学習の基盤となる資質・能力」と「現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力」の二つが示されています。前者の例としては、言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力などが、後者の例としては、多様な他者と協働しながら目標に向かって挑戦する力、自然環境や資源の有限性等の中で持続可能な社会をつくる力などがあります。各学校において、子どもたちや学校、地域の実情に応じて、どのような資質・能力の育成を図っていくのかを明らかにしていくことが大切です。

Q: 各キャリアステージで、どのようにカリキュラム・マネジメントに関わっていけばよいですか？

A: 各ステージで、下の表に示したように役割は変わってきます。全ての教職員が、当事者意識をもってその役割を果たしていくからこそ、各学校の教育目標の実現に向けて、効果的に教育活動の質を高めていくことができるのです。

	管理職・ベテラン	中堅（主任・課長）	担任（学級・教科）
役割	○学年や分掌等の中のチームワークを高め、外部とつなぐ。 ○「めざす子どもの姿」の実現に向け、外部等に説明し理解を図る。	○教職員同士をつなぐ。 ○「めざす子どもの姿」の実現に向け、組織内の協働性を高める。	○相談できる仲間をつくる。 ○「めざす子どもの姿」の実現に向け、直接子どもと関わり、子どもの変容を支援する。

4

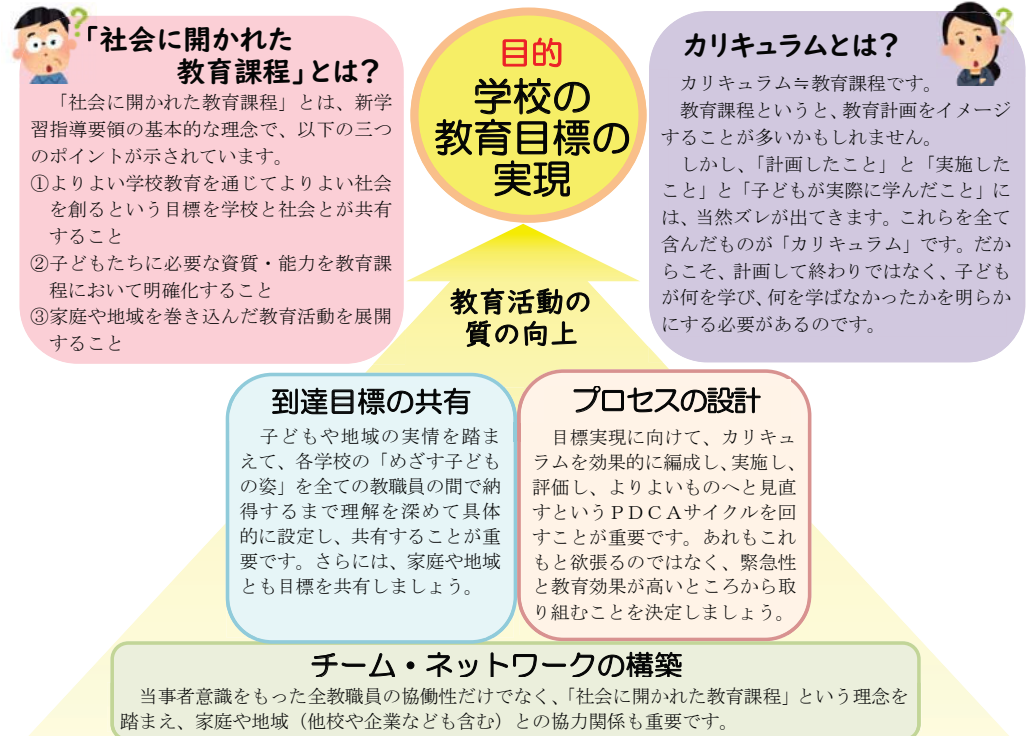
「社会に開かれた教育課程」を実現するカリキュラム・マネジメント

今なぜカリキュラム・マネジメント？

複雑で予測困難な時代の中でも、子ども一人ひとりが社会の変化に主体的に向き合っていくために、多様な他者と協働しながら、よりよい社会の形成者として自己実現を図っていくような資質・能力を育むことが求められています。そのために、子どもたちの様々な**学びがつながり**をもち、幅広い学習や生活の場面で活用できるように、組織的かつ計画的に教育活動の質を高め、学習効果の最大化を図る営みである**カリキュラム・マネジメント**が必要とされているのです。本リーフレットでは、カリキュラム・マネジメント実施のポイントや具体例をご紹介します。

■マネジメントに必須の3要素

カリキュラム・マネジメントの目的である「各学校の教育目標の実現」を達成するためには、三つの要素が必要です。それは、「到達目標の共有」「プロセスの設計」「チーム・ネットワークの構築」です。この三つの視点から、各学校の状況を確認してみましょう。



作成：やまぐち総合教育支援センター 監修：学校マネジメントコンサルタント 妹尾 昌俊
※本リーフレットは、(公財) 山口県ひとづくり財団共催「平成30年度『社会に開かれた教育課程』を実現するカリキュラム・マネジメント研修モデル事業」による取組をもとに作成しました。(平成31年3月)

1

子どもたちの資質・能力の育成をめざして！

ここでは、カリキュラム・マネジメントを進めるための具体例を五つのステップとしてご紹介します。どのステップでも、「めざす子どもの姿」や年間指導計画などの共有すべきことを「見える化」して、目標と教科、教科と総合的な学習（探究）の時間などとの「つながり」を明確にすることが大切です。

ステップ②

「めざす子どもの姿」という具体的な目標を設定しよう！

学校には、校訓など教育理念を短い言葉で表したスローガンがありますね。このスローガンを具体化して共有しなければ、日々の教育活動に効果的につなげていくことはできません。ステップ①で見出した共通の課題、保護者や地域の願い、自校の使命などを踏まえながら、「めざす子どもの姿」として具体化し共有することが重要です。そのためにも、学校評議員会や学校運営協議会など、家庭や地域を巻き込んだ校内研修や熟議の機会を設けることが有効です。学校にとっては、家庭や地域の願いを知って新たな視点を獲得するよい機会となりますし、家庭や地域にとっても、学校の現状や教育活動の目的を知るよい機会となります。学校全体の「めざす子どもの姿」が決まったら学年や教科でもそれを踏まえた目標を設定しましょう。



教職員と保護者合同の校内研修

そして、「めざす子どもの姿」を子どもたちと共有するとともに、広報等で家庭や地域とも共有しましょう。もちろん、子どもたち自身に自分たちのめざす姿を考えさせることも重要です。

ステップ③

「めざす子どもの姿」を踏まえて、教育活動を見直そう！

自校の子どもたちの姿は、これまでのカリキュラムによる結果が表れたものだと考えられます。「めざす子どもの姿」と照らし合わせながら、これまでの教育活動について見直し、強化したり、規模の縮小や廃止をしたり、新規の取組を考えたりすることを検討しましょう。その際、次のようなことに注意することで、効果的なプランになるでしょう。それは、前年度の取組の成果と課題を引き継いだ上で今年度の教育活動の見直しを図ること、教科等の枠を越えて取り組むと学びが充実する部分は教科間の連携を図ること、学校の中だけでは限界のある教育活動や地域からの要請等について、家庭や地域とどう連携・協働していけるか考えることなどです。

また、この時ステップ⑥の教育活動の評価について、いつ、どのように、実施するのかも計画しておきましょう。「学校評価アンケート」などの項目についても、各学校が取り組んでいる教育活動を評価できるものになっているか見直しをしていきましょう。

ステップ④

「めざす子どもの姿」の実現に向けて実践しよう！

ステップ③で立てたプランに従って、教育活動を実施していきます。その際、注意するのは、「めざす子どもの姿」の実現という目的を常に意識するという事です。家庭や地域と連携・協働するときにも、何のためにその活動をするのかを共有した上で取り組まなければ、「活動あって学びなし」となってしまいます。「めざす子どもの姿」の実現という目的に、その教育活動がどうだったか、そのつど振り返りましょう。

また、中学校や高等学校では、他教科がどのような取組をしているのか意外に知らないものです。各教科の代表者が集まって、年度途中に取組の過程を共有する進捗状況報告会のような機会を設けたり、授業公開を日常化して他教科の授業を見合ったりすることも、教科等横断的な視点で、教育活動を考える上で有効です。



教科の代表者による進捗状況報告会

ステップ①

自校の子どもたちの課題を把握しよう！

カリキュラム・マネジメントの第一歩は、課題の把握です。管理職だけでなく、全ての教職員で「今年度重点的に取り組む課題」を共有した上で、その課題の克服に向けて取り組んでいくことが重要です。

課題を共有するためには、ワークショップ型の校内研修を実施することが有効ですが、時間的に難しければ、一人ひとりに課題を記入するワークシートを配付し、出された内容をまとめて、共通する課題を全体で確認する方法をとってもよいでしょう。

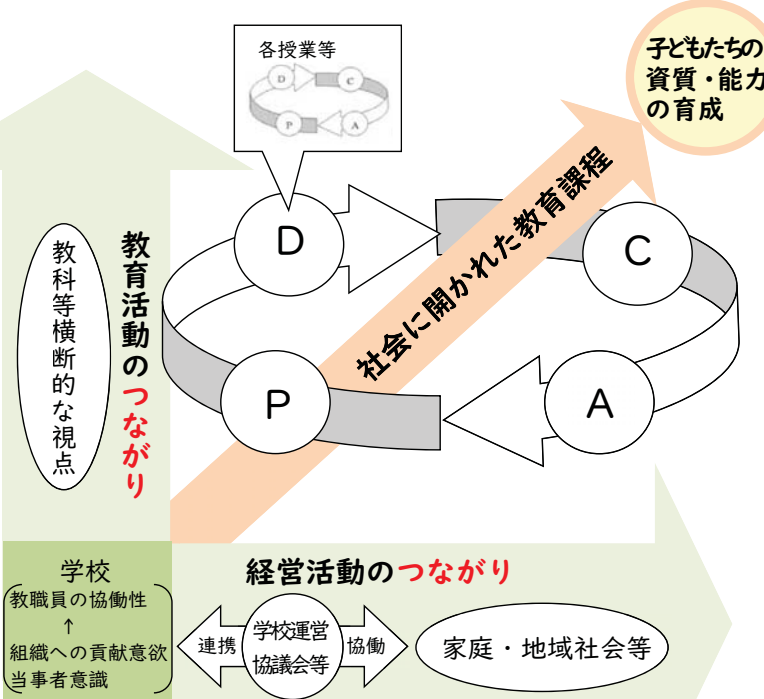
また、課題だけでなく、その地域の人的・物的資源も含んだ自校の強みについても教職員間で確認することで、ステップ②③に取り組む上でのヒントにすることができそうです。

校内研修会 事前課題記入シート

問1 本校の子どもたちの傾向として、特に気になること、または、大きな課題、問題だと思ふことのトップ3を挙げてください。

問2 本校のよさや魅力、資源として、今後もっと伸ばしていけたらよいと思うことや、もっと充実できるとよいと思うことは何ですか？

課題と自校の強みを見出すワークシート



<カリキュラム・マネジメントの三つの側面>

- 教師が連携し、複数の教科等の連携を図りながら授業をつくる
- 学校教育の効果を常に検証して改善するPDCAサイクルを確立する
- 地域と連携し、よりよい学校教育をめざす

ステップ⑤

教育活動を振り返ろう！

改善につなげるために、一定の期間にわたる教育活動を評価する必要があります。「学校評価アンケート」「授業評価アンケート」「全国学力・学習状況調査」などの数量で表せる方法も評価の方法として有効です。教職員の評価が高いのに子どもたちの評価が低いというズレのある部分に、まずは注目しましょう。何らかの見直しが必要な部分と考えられます。

また、数量で表した資料以外に、授業中の子どもたちの発言やノート、感想文、研究授業や授業参観等を通して出された保護者・地域の方による教育課程や授業に関する意見、学校評議員会や学校運営協議会による評価や提案なども教育活動を評価する貴重な資料となります。

さらに、課題だけに目を向けるのではなく、成果も明確にして共有しましょう。成果を共有すると、次の取組へのモチベーションが高まるからです。

そして、見出された成果と課題は、教職員の間でのみ共有するのではなく、家庭や地域に向けて広報等で積極的に発信していきましょう。

スタート